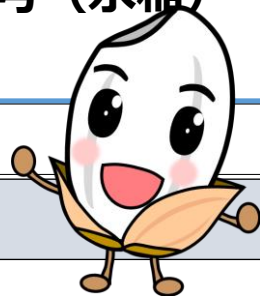


令和8年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第4号（水稻）

令和8年7月8日発表（対象期間：令和8年7月上旬～7月下旬）



1- (1)

水稻病害虫の現況と予報（概要）

病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
葉いもち	※中北部	やや少 	やや少 	- 置き苗は発生源になるので、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。 - 育苗箱施用剤を処理したほ場でも、発生に注意してほ場の見回りを行ってください。 - いもち病に弱い品種では特に注意しましょう。 - 発生が見られたほ場では、速やかに防除しましょう。
	※南部	並 	並 	
紋枯病		並 (発生なし) 	やや多 	- 梅雨明け後に高温で経過すると感染が進み、発病株率が増加するので注意が必要です。 - 昨年、発生が多かったほ場は注意が必要です。 - 防除を行う判断の目安は、穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上になった時です。
セジロウンカ		並 	やや多 	- 穂ばらみ期の防除を徹底しましょう。 - 一部の飼料用米では、特に注意しましょう（北陸193号、タカナリなど） - 飼料用米では、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル（農林水産省HPに移動）」を参考に防除して下さい。 - 要防除水準；幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上
トビイロウンカ		並 (発生なし) 	並 	- 今後の飛来によっては、発生量が増えることもあるため、ほ場での発生状況を確認しましょう。 - 防除判断は、9月上旬（飛来後第3世代幼虫発生期）です。
イネカメムシ		並 (発生なし) 	並 	- 出穂前の水田に侵入し、不稔を発生させることが確認されているため、多発地域では出穂ははじめに防除しましょう。 - 斑点米被害防止のため、発生が多い場合は出穂期以降の2回目防除も検討しましょう。 (要防除水準) 2頭以上/20回振り (防除時期) 出穂期～その10日後に1～2回
斑点米カメムシ類		やや多 	やや多 	- 早生は出穂が早いので防除時期を逸しないようにしましょう。 - 出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控え、中生では出穂2週間前までに除草を終えましょう。 - 牧草地の掘り取り調査ではクモヘリカメムシが多く捕獲されています。

※中北部とは、北部、中東部、中西部を合わせた地域です

① 葉いもち		現況 → 予報			現況 → 予報	
		中北部		南部		
予報の根拠		やや少	やや少	並	並	
(+) : 多発要因、(±) : 平年並、(-) : 少発要因						
● 7月上旬巡回調査では、中北部では1地点、南部でも1地点発生が確認されました(±)。 ● 中国地方1か月予報では、気温が高く、降水量は平年並か少ない予報です(-)。 ● BLASTAMによる累積感染好適日は、平年より多くなっています。(+)						

【防除上の注意事項】

- 穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- 置き苗は発生源になるので、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。
- 育苗箱施用剤を処理したほ場でも、発生に注意してほ場の見回りを行いましょう。6月以降の田植で遅効性の抵抗性誘導剤を使用した場合、効果が劣ることがあるため、いもち病に弱い品種では特に注意が必要です。
- 葉いもち初発確認後の早い時期に防除効果が高くなります。発生が見られたほ場では、速やかに防除しましょう。
- 以下の「ひろしま病害虫情報 病害虫図鑑(普通作物)」もご覧下さい。

「病害虫図鑑(普通作物)」

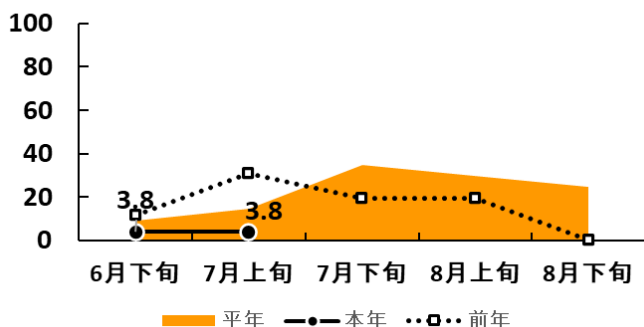
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html>

「水稲病害虫調査結果の詳細と発生予測～葉いもち発生予測システム」

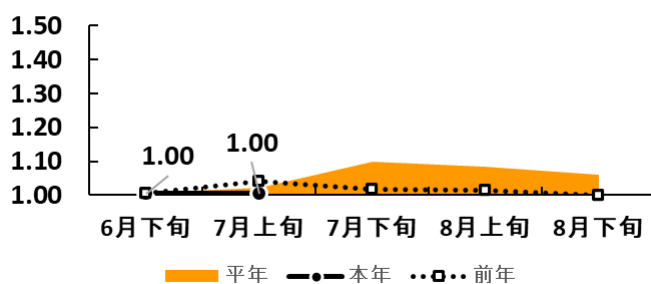
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/suito-imotobi.html>

【巡回調査データ】

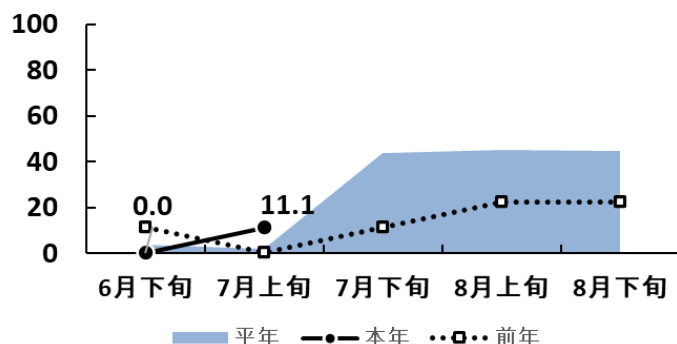
葉いもち 発生地点率(中北部26地点)



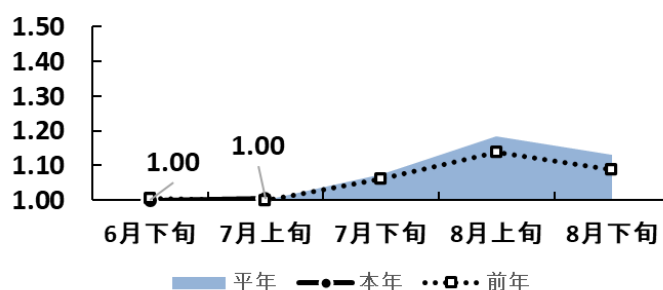
葉いもち 発生程度(中北部26地点)



葉いもち 発生地点率(南部9地点)



葉いもち 発生程度(南部9地点)

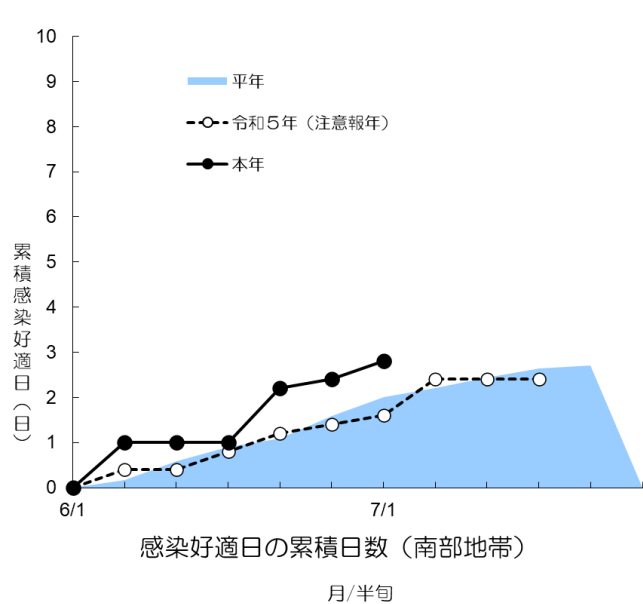
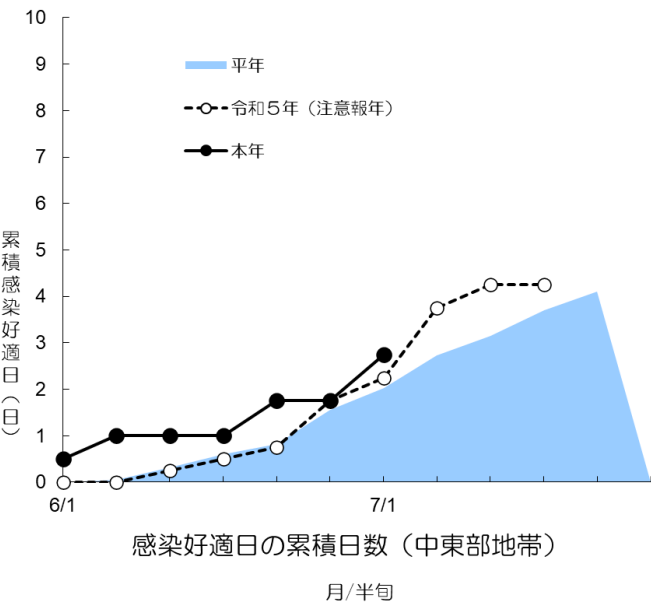
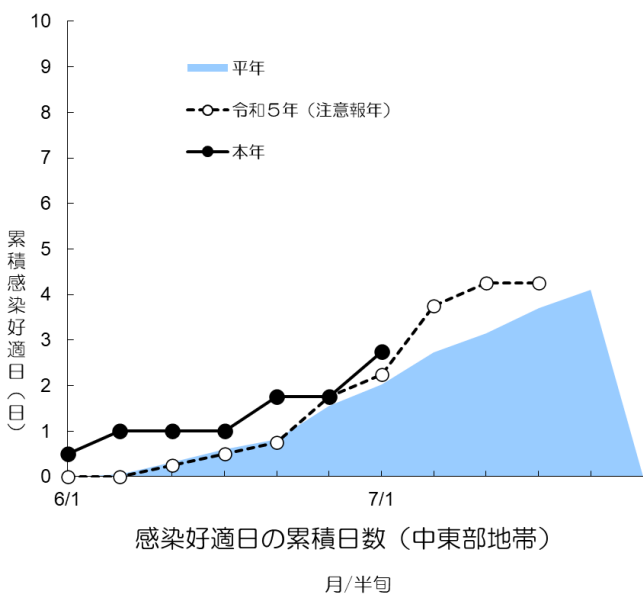
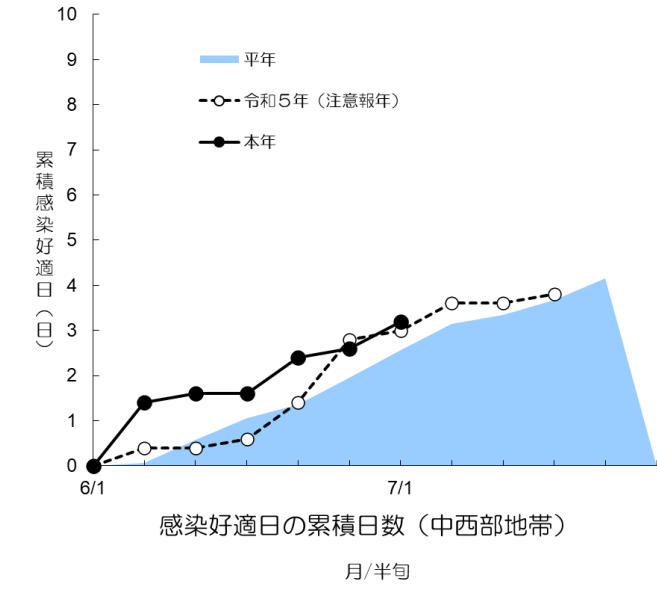


BLASTAMによる「いもち病の危険度」の推定

地帯別「いもち病の感染好適日」の累積日数

※ いもち病の発生しやすさを予測するシステム：BLASTAM（ブラスタム）を用いて、気象庁のアメダスデータ（気温、降水量、風速、日照）から、葉面の湿潤時間を計算し、いもち病が発生しやすい条件となる日：感染好適日を推定しています。

※ 累積感染好適日とは、BLASTAMによる感染好適日を累積したものです。値が大きい程いもち病の発生リスクが高いと予想されます。



② 紋枯病

現況



予報

予報の根拠

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

- 7月上旬巡回調査では、発生が確認されませんでした(±)。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、降水量は平年並か少ない予報です(±)。



【防除上の注意事項】

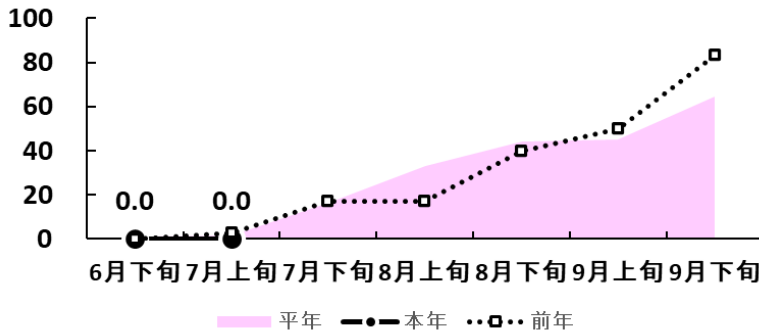
- 高温、多湿を紋枯病菌は好みます。
梅雨明け後の高温や降雨や曇天が続くことが予想されるときは防除を徹底しましょう。
- 昨年発生が多かった場合は、越冬した菌核量が多く注意が必要です。
- 薬剤防除は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が適期です。
薬剤は、病患部の葉鞘によく付着するよう株元をねらって散布しましょう。

(要防除水準)

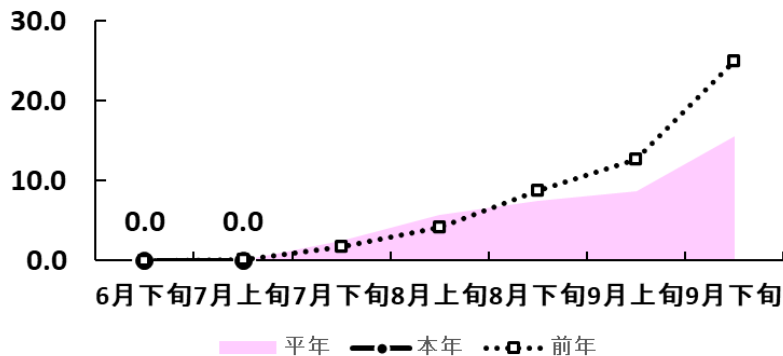
穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上。

【巡回調査データ】

紋枯病 発生地点率(全域 35地点)



紋枯病 発生株率(全域 35地点)



③ セジロウンカ

現況

予報

予報の根拠

- 7月上旬巡回調査では、県内全域の発生地点率が31.4%で平年並でした（±）。
- 予察灯（呉市）では7月5日までに合計31頭の誘殺があり、平年値よりも誘殺数が多くなっています（+）。
- 予察田（呉市）では、7月2半旬に100株当たり4頭確認されており平年より少なくなっています（-）。

並



やや多



【防除上の注意事項】

- 穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底しましょう。
- ウンカ類に卓効を示し長期残効するトリフルメゾピリムなどを含有する箱施用剤を処理している場合、本虫が急激に増殖する可能性は低いと考えられます。
- しかし、箱施用剤を処理していない又は長期残効する箱施用剤を処理していない場合、田植えが5月上旬までの場合、第1世代幼虫の発生盛期となる7月中旬頃にほ場での発生を確認し、防除を実施しましょう。
- 今後も飛来が予想されるため、発生量の増加に注意しましょう。
- 今後の発生状況については、発生予察情報を参考にしてください。

（要防除水準）

幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上

- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病虫害情報」の「調査の方法」をご覧ください。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/475204.pdf>



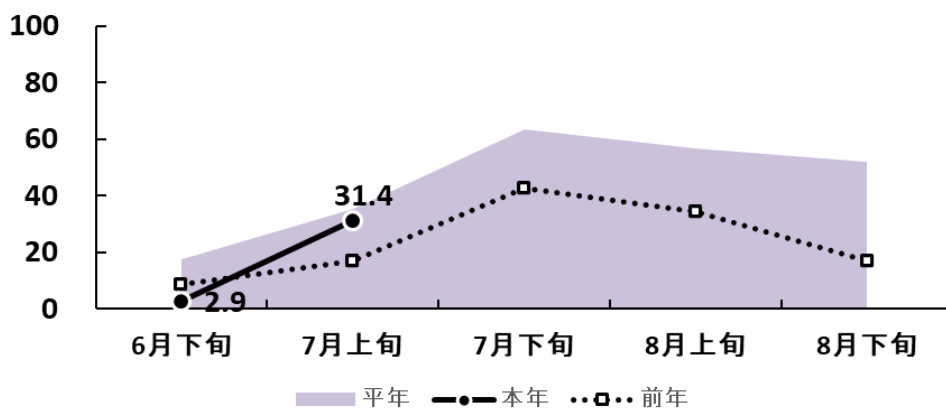
長翅型雌成虫



中老齢幼虫

【巡回調査データ】

セジロウンカ 発生地点率(全域 35地点)



④ トビイロウンカ

現況 → 予報

予報の根拠		並	並
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因	● 7月上旬巡回調査では、発生は見られませんでした(±)。 ● 予察灯(呉市、東広島市)、予察田(呉市)では、確認されませんでした(±)。	(発生なし)	

【防除上の注意事項】

- 5月上旬までの田植えの場合では、箱施用剤の効果が弱まっている可能性があるため、第1世代幼虫の発生する7月中旬頃には場での発生を確認しましょう。
- 5月中旬以降田植えの場合では、ウンカ類に卓効を示し長期残効するトリフルメゾピリムなどを含有する箱施用剤を処理している場合、本虫が急激に増殖する可能性は低いと考えられます。
- しかし、箱施用剤を処理していない又は長期残効する箱施用剤を処理していない場合、第1世代幼虫の発生する7月中旬頃には場での発生を確認しましょう。
- 今後も飛来が予想されるため、発生量の増加に注意しましょう。
- 今後の発生状況については、発生予察情報を参考にしてください。
- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/475204.pdf>



体長: 約4.5~5mm

長翅型雌成虫



体長: 約3.3mm

短翅型雌成虫

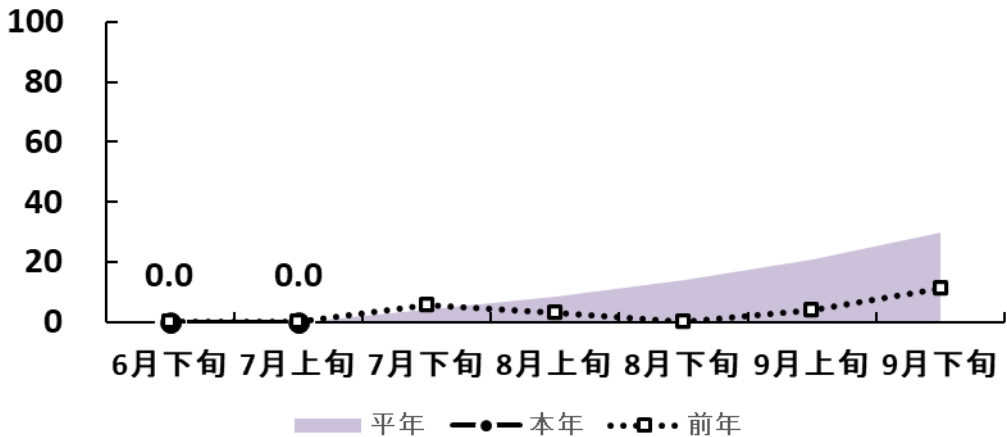


体長: 約1.5~3mm

中老齢幼虫

【巡回調査データ】

トビイロウンカ 発生地点率(全域 35地点)

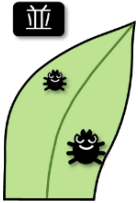


⑤- 1 イネカメムシ

現況  予報

予報の根拠

- 予察灯（呉市）では誘殺されていません（±）。
- 現地での発生の報告はありません（±）。
- 中国地方 1 か月予報では、気温が高く、増殖に好適です（+）。



【防除上の注意事項】

- イネカメムシは、斑点米被害だけではなく不稔による大幅な減収を発生させる恐れがあります。出穂前の水田に侵入し、不稔を発生させることが確認されているため、多発地域では出穂はじめに防除しましょう。斑点米被害防止のため、発生が多い場合は出穂期以降の 2 回目防除も検討しましょう。
- 極早生・早生品種は集中加害を受ける場合があるため、特に注意しましょう。

（要防除水準）

2 頭以上／20 回振り

（防除時期）

出穂期～その10日後に 1 ～ 2 回

- 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「[調査の方法](#)」をご覧ください。



1 齢幼虫



中齢幼虫



成虫

【イネカメムシについて】

● 形態

体長12-13mmの大型のカメムシ。体色は黄褐色で背部両面に白色帯を持ちます。体形はやや細長いです。幼虫はそれより小さく、白っぽい灰色をしています。

● 生態

成虫はススキや樹木などの根元や枯葉の下などで越冬し、6月下旬～7月上旬頃に水田への飛来が見られます。出穂していない水田にも集中飛来して集団化することもあります。

その後、早生品種から中生品種へ出穂した水稻へ移動しながら増殖し、年1～2化します。

その後は越冬地へ移動します。

夜行性のため、早朝などはその姿を確認しやすいですが、日中はイネの株もとに潜むため発生に気が付かず、大きな被害が発生することが多いです。

⑤- 2 斑点米カメムシ類

現況  予報

予報の根拠		現況	予報
(＋) : 多発要因 (±) : 平年並 (－) : 少発要因	● 6月中旬の牧草地すくい取り調査では、カスミカメ類、その他加害種はともに過去10年で2番目に多い発生でした(＋)。 ● アカスジカスミカメの7月第1半旬までの予察灯(呉市)への誘殺数は、13頭で平年値(58.2頭)よりも少なくなっています(－)。 ● 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です(＋)。		

【防除上の注意事項】

● 斑点米被害は、カメムシ類の成虫または幼虫がイネの出穂期以降に穂を吸汁し、吸汁痕が褐変して玄米表面に斑紋をつくることで発生します。したがって、防除の目的は出穂期以降のカメムシ類の密度低下にあります。但し、近年沿岸地域を中心に発生・被害が拡大してるイネカメムシ(⑤-1参照)については、穂ばらみ期の水田に侵入することが確認されており、多発時には出穂前の防除も実施しましょう。

● 早生は、出穂が早いいため防除時期を逸さないようにしましょう。

● 出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控えるようにしましょう。中生では出穂2週間前までに除草を終えましょう。

(要防除水準)

カスミカメ類：4頭以上／20回振り

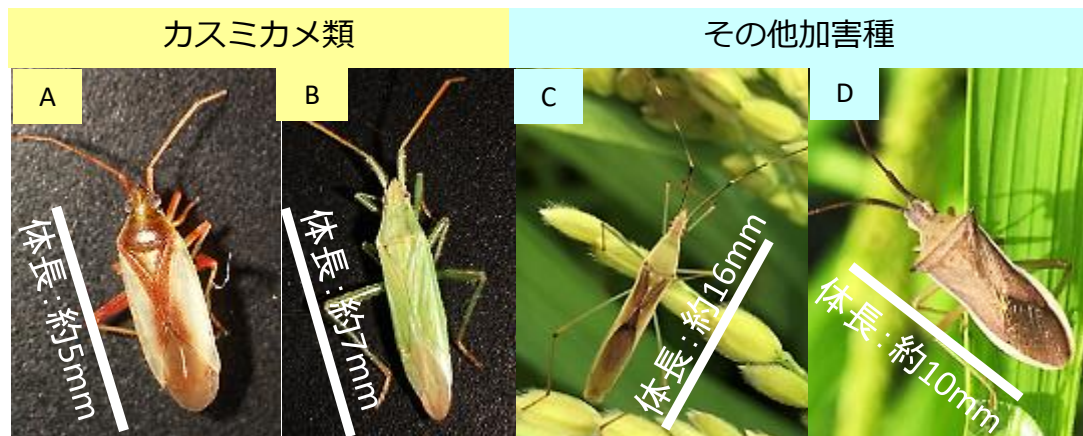
その他加害種：2頭以上／20回振り

(防除時期)

カスミカメ類：出穂期～その10日後に1～2回。

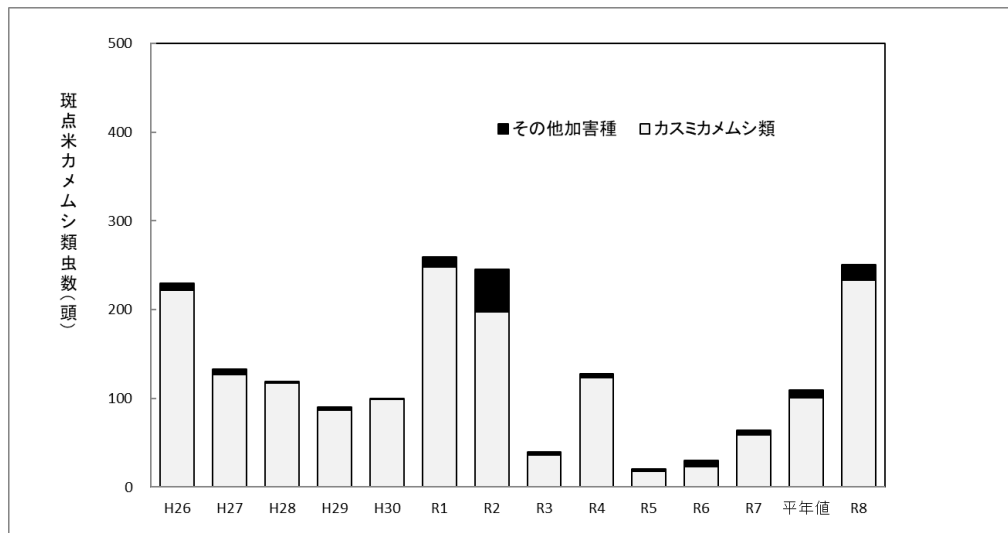
その他加害種：出穂7日後～14日後に1～2回。

● 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。



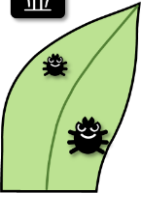
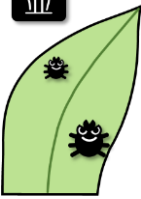
A：アカスジカスミカメ、B：フタトゲミギカスミカメ、その他加害種C：クモヘリカメムシ、D：ホソハリカメムシ

斑点米カメムシ類すくい取り調査結果



※発生頭数は捕虫網による牧草地での20回振りすくいとり調査による

※カスミカメシ類はアカスジカスミカメなどの小型のカメムシ類、その他加害種はホソハリカメムシなどの大型のカメムシ類。

病害虫名	現況	防除上の注意事項
ヒメトビウンカ	並 	7月上旬の巡回調査では、やや少ないの発生地点率でした。 県南部では発生地点率が55.6%でした。 出穂前後の防除を徹底しましょう。 また、縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
フタオビコヤガ	やや少 	7月上旬の巡回調査ではやや少ない発生でした。 県中西部で幼虫の食害がみられています。 穂ばらみ期防除を基本に実施しましょう。
コブノメイガ	並 	7月上旬の巡回調査では確認されませんでした。 予察灯（呉市）では、6月に5頭誘殺されています。 (防除時期) 穂ばらみ期、穂ぞろい期の2回の防除を徹底の上、 中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、 粉剤・液剤は発蛾最盛期の7日後、 粒剤は発蛾最盛期に追加で防除を行います

(広島地方気象台7月2日発表、7月4日から8月3日までの天候見通し)

●向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。期間の前半は、梅雨前線や湿った空気の影響を受けにくいいため、向こう1か月の降水量は平年並みか少ないでしょう。

●期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

●向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

●週別の気温は、1週目は高い確率50%、2週目は高い確率50%、3～4週目は高い確率50%です。

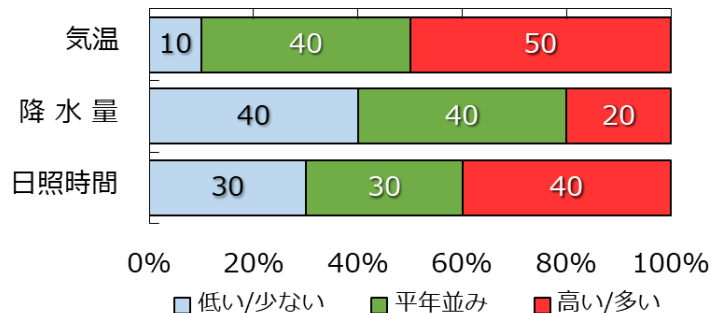


図1. 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率(%)

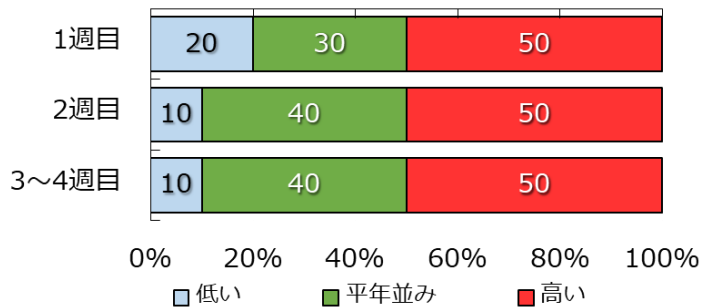
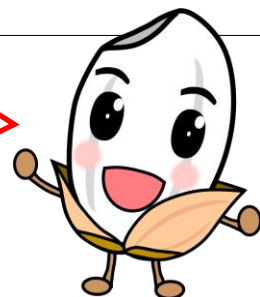


図2. 向こう1か月の気温経過の各階級の確率(%)

6月1日から8月31日まで、**農薬危害防止運動**実施中！
農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。





【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」 : 2～3番目と同程度
- 「並」 : 4～7番目と同程度
- 「やや少」 : 8～9番目と同程度
- 「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下



●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報
二次元コードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662（直通）

